

評 価 細 目 の 第 三 者 評 価 結 果

（保育所、地域型保育事業）

I 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

	第三者評価結果	コメント
I-1-（1） 理念、基本方針が確立・周知されている。		
I-1-（1）-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a	法人理念や使命、行動指針は事務所内の職員の目に付く場所に掲示されている。また新年度職員会議で周知をしている。そのほか、園が作成した職員マニュアルに園の職員目標、クラス目標を記載して職員への周知と浸透が図られている。外部に向けてはWEBページやパンフレットに保育理念や目標、方針などがわかりやすく示されている。

I-2 経営状況の把握

	第三者評価結果	コメント
I-2-（1） 経営環境の変化等に適切に対応している。		
I-2-（1）-① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b	事業環境分析は実施されていないが、行政や県の園長会で情報収集をしている。また、法人園長会議では、事業環境や保育に関する情報が周知され、得られた情報に基づき園運営をしている。園内では保護者アンケートの結果を改善に活かしている。
I-2-（1）-② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	b	人員確保策などは、本社運営部が配置基準や職員状況を考慮して採用活動を実施している。また、グループ園の全体的な課題については本社から経営会議において周知され、園として取り組んでいる。園長、主任、副主任は毎月会議（三者会議）を開催し、保育実施面や人材育成等の課題について話し合っており、課題とその解決に向けた取り組みは幼児リーダー、乳児リーダーに伝えられ、幼児会議、乳児会議で職員に周知して解決に向けた活動が実施されている。

I-3 事業計画の策定

	第三者評価結果	コメント
I-3-（1） 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
I-3-（1）-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	c	中長期の事業計画は作成されていないが、例えば、人員体制に関する方針や計画については、本社が現場の状況と意見を汲み取り状況を鑑みて策定している。園内では園長・主任・副主任の3者で園の将来的なビジョンとそのための取り組み、目指す保育、期待する職員像等について話し合っているが、計画として策定されておらず、明文化と周知については向上の余地がある。
I-3-（1）-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	c	単年度の事業計画は作成されていない。保育に関しては年度当初に年間予定計画表や各指導計画、食育計画を作成し、各種活動に関してもクラス毎に計画を立てている。
I-3-（2） 事業計画が適切に策定されている。		
I-3-（2）-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	c	園運営のほか、実施する行事等についても本社と相談して進めており、内容について職員との共有がされている。個別の計画では、例えば、安全については安全計画、地域に関しては全体的な計画への記載、人材育成については法人研修や外部研修を含めた研修計画を作成し、毎年度見直して着実な実行に取り組んでいる。

I-3-(2)-② 事業計画は、利用者等に周知され、理解を促している。	c	事業計画の作成がされていないことから、利用者等への周知はされていない。
-------------------------------------	---	-------------------------------------

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

	第三者評価結果	コメント
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
I-4-(1)-① 福祉サービスの質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a	職員研修を積極的に実施している。研修は本社主催の研修と園内研修に加え外部研修があり、外部研修を各自年1回は受講できるようにしている。受講後は会議時にアウトプットすることで園全体の保育力向上に向取り組んでいる。また、保育力の向上に向けた取り組みの一環で保育の「見える化」に取り組んでいる。
I-4-(1)-② 評価結果に基づき組織として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b	保育関係者の自己評価では前年度の振り返りを実施後に今年度の目標を立て、前期、後期で目標設定と反省をおこなっている。園の自己評価は毎年度末に実施して保護者に向けた周知がされている。園の自己評価は園長が実施し、主任と副主任が確認して必要に応じて修正しているが改善に向けた活用については向上の余地がある。

II 組織の運営管理

II-1 管理者の責任とリーダーシップ

	第三者評価結果	コメント
II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
II-1-(1)-① 管理者は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a	園長、主任、副主任の業務を一覧にして職員に周知している。また、組織運営における園長の考え方を職員に表明し浸透が図られている。
II-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a	法人のスタッフ研修マニュアルには社員心得、ビジネスマナー、個人情報保護、職場のルールなどが記載されており、園内ではルールなどについて3月に園内職員マニュアルを用いて読み合わせをして理解と浸透に努めている。不適切保育については日常の声掛けと会議で取り上げ、人権擁護については法人の人権強化期間に園内で会議を持ち、個別チェックをおこなうなど徹底して取り組んでいる。
II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
II-1-(2)-① 福祉サービスの質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a	継続して保育の質を高めるべく、研修や保育者間での意見交換の場を持ち、より良い園作りに力を入れている。保育については「自分たちが楽しいと思える保育をする」「しんどいときは仲間に助けを求める」ことを職員に伝え、職員の意欲向上と業務負担の軽減を図り、サービスの質の向上につなげることに取り組んでいる。各リーダーや職員からはシフトのことや、行いたいことに関し、積極的に意見具申や提案が挙がる状況となっている。
II-1-(2)-② 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a	サービスの質を高めるべく人材の育成に注力して取り組み、職員個々の特性を踏まえて園長から個別のアドバイスをおこなっている。具体的には保育日誌を確認して工夫点や悩みなどを把握し、現場およびその人に即したアドバイスをおこなう等の手法により、業務改善や能力の向上が促されている。また、業務負担軽減措置として、各種書類の簡略化、効率化を図り、成果も生じている。

Ⅱ－２ 福祉人材の確保・育成

		第三者評価結果	コメント
Ⅱ－２－（１） 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が		整備されている。	
Ⅱ－２－（１）－① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b	人材確保と定着に関する方針は本社で策定している。職員の定着化に向け、本社で開催する施設長研修では、「やめない職員をつくる心理的安全とは」などをテーマとして研修を実施している。園内では職場環境づくりに取り組み、相談しやすい雰囲気づくりや、保育現場の現状把握による適宜のアドバイスなどが実施されている。これらの取り組みにより、この数年は定着率が向上している。	
Ⅱ－２－（１）－② 総合的な人事管理が行われている。	b	人事・労務・業務管理にシステムを導入し、効率化とデータ管理が実施されている。また、職員の募集・採用は本部で実施し、園としては本社と連絡を取り合い人員の確保に取り組んでいる。職員個々の状況は定期的な面談により把握して育成に役立てている。人事考課は実施していないが、職員個々が毎年度自己評価を行い、年度目標、前期・後期の目標を設定して期末に振り返り、次期の目標を各自が設定している。	
Ⅱ－２－（２） 職員の就業状況に配慮がなされている。			
Ⅱ－２－（２）－① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a	年末に意向調査を実施して職員の意向を把握している。休暇については有給休暇の消化状況を管理しており、消化率は50%程度となっている。残業も少ない状態を維持している。 毎月の職員ミーティングの中で各自の悩みや相談事などを話し合う機会を設けている等、「職員個々が楽しく働きやすい職場をつくる」ことを目標として各種施策を実施している。また、役職者と一般職員の間に隔たりを作らず、風通しの良い環境を作る事を心掛けている。そのほか、法人では従業員相談窓口を設置している。	
Ⅱ－２－（３） 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。			
Ⅱ－２－（３）－① 職員一人一人の育成に向けた取組を行っている。	a	職員面談の場で個別にアドバイスし、また、保育実践面については主任が担当してOJTを実施している。職員個々の働き方や悩みなどを共有して、必要なアドバイスや援助を行いステップアップできるよう環境を整えている。	
Ⅱ－２－（３）－② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b	法人として研修計画を策定しており、新人、全体での必須研修、職能別研修として主任、副主任向けの上位研修、施設長向けの独自研修が設定され、それぞれ外部講師により、動画、オンラインで該当する職員向けに実施されている。また、園内研修が年12回実施され、保育に必要な知識や技術の習得・習熟が図られている。	
Ⅱ－２－（３）－③ 職員一人一人の教育・研修の機会が確保されている。	a	法人研修には、毎回、園から1、2名の職員が参加し、受講後は園内で研修報告を発表している。また、職員個々のスキルや得意・不得意分野を把握して、外部研修を計画的に受講してもらっている。 園内研修は、つながる保育、痙攣、誤嚥、モンテッソーリ、アンガーマネジメント、等のテーマで実施されている。研修では職員各自がテーマについて自分で調べて発表をしており、スキルアップに役立つ研修が実施されている。	

Ⅱ－２－（４） 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
Ⅱ－２－（４）－① 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a	実習生の受け入れについては、法人統一のマニュアルがあるほか、園として大切にしてほしい事（態度や心構え、所作など）を実習生に伝えている。保育園として実習生をどう育てるかなど、ねらいも設定して、実習生の受け入れを積極的に実施している。

Ⅱ－３ 運営の透明性の確保

	第三者評価結果	コメント
Ⅱ－３－（１） 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
Ⅱ－３－（１）－① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a	子ども・子育て支援情報公表システムにおいて情報公開がされている。WEBページは法人、園でそれぞれ開設されており、法人WEBページでは保育に関する基本方針やSDGsの取り組みなどの概要、園のWEBページでは園の概要やプログラムなどを動画も取り入れて公開している。そのほか、保育士体験や地域交流など、地域の人々が保育園内に入る機会があり、地域に向け透明性が高められている。
Ⅱ－３－（１）－② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a	法令・コンプライアンス遵守のために顧問弁護士を依頼し、労務・契約など、法務面でのサポートを継続的に受けている。また、会計税務全般に関する支援や就業規則の作成、労務案件相談にそれぞれ専門家（税理士・社労士）の助言を得ている。そのほか、自治体による監査内容に基づき必要書類等の内部監査が実施されている。運営委員会は年2回、保護者2名のほか、園長、主任、本部職員1名が出席して開催されている。

Ⅱ－４ 地域との交流、地域貢献

	第三者評価結果	コメント
Ⅱ－４－（１） 地域との関係が適切に確保されている。		
Ⅱ－４－（１）－① 利用者と地域との交流を広げるための取組を行っている。	a	「スクルドで遊ぼう」を月1回実施し、地域の子育て家庭向けに、在園児と地域の子どもが一緒に遊ぶ保育体験の機会を提供している。地域との交流では、近隣で収穫体験ができる農家を探し協力を得ることができている。自治会には加入している。行事の際は地域で普段世話になっている人たちに挨拶に行くなど交流の機会を設けている。
Ⅱ－４－（１）－② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	c	ボランティアについては積極的な受け入れをおこなっていない。受け入れる場合は守秘義務に関する誓約など、本部からの指示により行うことになっている。
Ⅱ－４－（２） 関係機関との連携が確保されている。		
Ⅱ－４－（２）－① 福祉施設・事業所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b	発達支援センターや保健所、市役所、児童相談所などと連絡を取り合い、相談するほか必要に応じ連携している。また、病院の各診療科には適宜連絡して受診し、情報提供を受けている。
Ⅱ－４－（３） 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
Ⅱ－４－（３）－① 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b	月1回程度実施する地域向けの保育園解放では、参加者から口頭やアンケートにより、地域の子育てニーズを聞き取っている。
Ⅱ－４－（３）－② 地域の福祉ニーズ等に基づく公益的な事業・活動が行われている。	b	地域向けの保育園解放には毎回、平均2、3組の参加があり、保育園入園にあたり生じる不安の低減や、保育を知る機会の提供等、地域の子育て家庭のニーズに応えている。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ－１ 利用者本位の福祉サービス

		第三者評価結果	コメント
Ⅲ－１－（１） 利用者を尊重する姿勢が明示されている。			
Ⅲ－１－（１）－① 利用者を尊重した福祉サービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	子どもの尊重や人権への配慮については、法人で実施する新人研修、全体研修により職員が学ぶ機会があり、また、不適切保育については、法人全体研修と職能別研修（主任、副主任）に組み込まれている。園内では研修を適宜実施し、今年度はチェックシートを実施の上、職員会議で事例の共有をして話し合っている。 また、年度の初めの会議では園が推進している「つながる保育」についての指針を伝え、これに基づき保育を実践している、 保育実践面では、幼児は「サークルタイム」の中で、子どもの意見や興味を引き出し、探求や行事などにつなげている。	
Ⅲ－１－（１）－② 利用者のプライバシー保護に配慮した福祉サービス提供が行われている。	a	個人情報の取り扱いに関する同意書には収集する個人情報を明記し、収集した各情報についての同意をその書面で得ている。この中でブログや写真販売などでの肖像の利用に関しても同意を得ている。保育の現場では、衣類の着脱をする際は間仕切りを用いる、シャワーを浴びる際はタオルを体に巻く等、生活の中で子どものプライバシーへの配慮がされている。	
Ⅲ－１－（２） 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。			
Ⅲ－１－（２）－① 利用希望者に対して福祉サービス選択に必要な情報を積極的に提供している。	a	WEBページやパンフレットには、保育に関する基本的な考え方やそれに基づく取り組み、活動プログラム等の情報がわかりやすく示されている。また、一般公開しているブログも運営しており、多くの情報が発信されている。 見学案内時は、持ち物などの保護者負担が少ないことや、0歳児は少人数でアットホームな保育をしていること等、園の概要を丁寧に伝え、質問にも丁寧に答えるよう心がけている。	
Ⅲ－１－（２）－② 福祉サービスの開始・変更に当たり利用者等に分かりやすく説明している。	a	入園説明会では重要事項説明書を配布し、経営方針から保育内容、食事、保健衛生、災害時の対応等について丁寧に説明をおこなっている。 入園に関する説明の箇所は、毎日持参するもの、ロッカーで保管するものなど、保護者が具体的に知りたい内容を分かりやすく表にするなどの工夫がされている。	
Ⅲ－１－（２）－③ 福祉施設・事業所の変更や家庭への移行等に当たり福祉サービスの継続性に配慮した対応を行っている。	a	入園面接で保護者から子どもの特性や生活状況を丁寧に聞き取り、家庭状況を把握して児童票に記録している。 転園してきた子どもに関しては、前園からの生育記録をふまえ、保育にあたるよう配慮している。 また保護者からの相談があれば、詳しく聞き取ってその子どもに合った保育が提供できるよう努めている。	
Ⅲ－１－（３） 利用者満足の向上に努めている。			
Ⅲ－１－（３）－① 利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a	玄関に意見箱を設置し、投稿があれば保育者に周知し、会議で改善を検討している。また、内容を本部にも報告している。運営委員会は年に2回開催し、その中で保護者からの意見や園運営についての説明を行い、意見を得て諸事の向上に努めている。保育実施面については行事ごとにアンケートを実施して改善・向上に活かしている。	

Ⅲ－１－（４） 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
Ⅲ－１－（４）－① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a	入園説明会時には重要事項説明書の記載事項に基づき、保護者に向けて苦情相談窓口の説明をしている。苦情対応マニュアルが整備されており、職員に読んでもらっている。また、内部での対応が難しい場合には本部に相談し、報告して対応がされている。
Ⅲ－１－（４）－② 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している。	a	相談のしやすい環境づくりとして、明るい雰囲気づくり、玄関に職員紹介の掲示、お迎え時には保護者全員に一声かける、等が実施されている。日常的な相談については、保護者との連絡帳が乳児、幼児ともに用意されており活用されている。保護者との面談は定期で年2回、全員を対象に実施されている。そのほかにも保護者から相談があれば面談をしたり、保護者について気になる時は声を掛け、場合により面談をしている。
Ⅲ－１－（４）－③ 利用者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	保護者から相談や意見があったときは必ず報告し、園長・主任が知らなかったということが無いようにしている。苦情や相談のうち、大きな内容は職員が記録して個別ファイルに保存している。今年度は書類の整備を進め、経緯を時系列で辿りやすいよう記録の改善が実施されている。
Ⅲ－１－（５） 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		
Ⅲ－１－（５）－① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b	事故予防では、ヒヤリハットを収集している。提出を促すべく、ヒヤリハットを収集する週を決め、各クラスで月2回提出されており、内容について会議で取り上げて対策を話し合っている。
Ⅲ－１－（５）－② 感染症の予防や発生時における利用者の安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a	感染症BCPは作成されており、発症時の人員確保や優先業務、備品やゾーニング等が定められている。保育の現場では例えば、嘔吐処理の手順は年度当初の研修で動画を視聴し周知が図られており、今年度は年度当初のみでなく、冬季にも再確認をしている。実地訓練は時間があれば実施しており、参加できなかった職員は動画で確認してもらって全体への周知が図られている。感染症の発症があった時は、玄関に掲示して保護者に周知するとともに、類似する症状が見られた際には、状況を保護者に説明し受診を依頼するなど、感染症の発症と蔓延防止に努めている。
Ⅲ－１－（５）－③ 災害時における利用者の安全確保のための取組を組織的に行っている。	b	災害BCPは作成されており、ライフライン等が明確にされている。検証については計画に記載があるものの実施されていない。備品は準備されている。水害対応については水防計画を8月に改定しており、今年度は水囊をつくって水防訓練も実施している。避難訓練は年13回実施しており、日にちの指定をするのみで想定を伏せて実施して対応力を高めている。実施後は職員会議で振り返り、改善を実施している。インカムの導入により避難が円滑化された等、実施後の振り返りが改善につながっている。

Ⅲ－２ 福祉サービスの質の確保

Ⅲ－２－（１） 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		
Ⅲ－２－（１）－① 提供する福祉サービスについて標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが提供されている。	a	防災や防犯、健康管理、事故発生防止等の危機管理マニュアルや、保護者とのコミュニケーションや保育士の業務等の保育実践マニュアル、職員の心得や保育のポイント等を記載したスタッフ研修マニュアル等、本社が作成したマニュアルが整備され更新なども本社が管理している。園内ではルールや保護者対応などについて基本マニュアルを作成し3月には読み合わせをして周知が図られている。
Ⅲ－２－（１）－② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b	マニュアルの見直しは調査時点で実施中であり、改定作業が進められている。見直し・変更は三者会議で意見を出しあい検討のうえ実施しており、今後定期的に行う予定である。実業務では、新しい試みや、保育の中で非効率なこと等は見直しており、定期的に業務の点検・確認を実施している。
Ⅲ－２－（２） 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		
Ⅲ－２－（２）－① アセスメントにもとづく個別的な福祉サービス実施計画（個別支援計画）を適切に策定している。	a	子どもの状況は、児童票や成長に関する記録に記録されている。3歳児未満については、日々の様子を基に、毎月できるようになったことや、成長の様子などが記録されている。各指導計画は業務支援システムで管理されている。各指導計画は全体的な計画やクラス・子どもの状況に沿って作成され、「期ごとの反省・考察」をして振り返り、次期の各計画につなげられている。各計画はクラスごとの定期的なミーティングで作成し、反省・振り返りの内容を月2回の全体会議で情報共有して、次月の計画に反映されている。
Ⅲ－２－（２）－② 定期的に福祉サービス実施計画（個別支援計画）の評価・見直しを行っている。	a	3歳児未満は、乳児会議で個別日誌や個別記録を基にそれぞれの子どもの対応について話し合っている。3歳児以上は、幼児会議で保育日誌や日々の中で気付いたことを話し合っている。各クラスの反省や振り返りを共有して次月の指導案に反映させ、個々の成長に合わせた保育ができるよう配慮している。
Ⅲ－２－（３） 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		
Ⅲ－２－（３）－① 利用者に関する福祉サービス実施状況（個別支援計画）の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a	子どもの状況は児童票、保育日誌などに記録している。個々の子どもの状況に関しては乳・幼児会議で共有されている。気になる子どもについては、例えば、噛みつき行動が気になる場合などは、合同保育で担任以外の保育者も共通認識を持ち関われるよう配慮している。
Ⅲ－２－（３）－② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	a	3年前から個別データを業務支援システム（アプリ）で管理しており、それ以前のデータは書類で保管している。アプリでは健康診断や予防接種などの情報を管理しており、個人情報に関しては漏洩保護の目的で書類で管理するよう配慮している。

A 個別評価基準

A-1 保育内容

		第三者評価結果	コメント
A-1-（1） 全体的な計画の作成			
A-1-（1）-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	a		全体的な計画は、幼児リーダーと乳児リーダーによる新年度に向けた反省と振り返りの結果を踏まえ、園長、主任、副主任を含めて年度の課題を出し合い、園の理念・方針に基づいて作成されている。 全体的な計画には、理念や方針、保育目標、幼児期までに育てほしい10の姿に基づき、5領域や養護・教育、食育、長時間保育などについて詳細に記載されている。
A-1-（2） 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開			
A-1-（2）-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地良く過ごすことのできる環境を整備している。	a		保育所安全計画を立て、散歩コースや緊急避難場所、水遊びなど、月ごとの点検が実施されている。また、事故防止や安全指導に関するマニュアルを共有して、日々の安全確保策が実施されている。 保育の現場では、例えば、貸し出し図書のコーナーでは、子どもたちが利用しやすいようにひらがなで丁寧な案内がされていた。子どもが理解でき、使いやすさや自立心を育てる配慮がされている。
A-1-（2）-② 一人一人の子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a		子どもの発達を理解して、その中で子どもが何に興味があるのかを大切にしている。 散歩中に虫に興味を持った子どもがいれば、みんなで探したり、4歳、5歳児であれば図鑑で虫について調べたりするなど、子どもの興味と発達にあわせた保育が行われている。
A-1-（2）-③ 子どもが基本的な生活習慣を身に付けることができる環境の整備、援助を行っている。	a		年度初めに「年齢ごとの発達表」の資料を配布して、発達に関する情報共有を行い、日々の保育の中で発達に合わせた生活習慣を身につけられるよう配慮している。 0歳児であれば保育者とのかわりの中で、指差しやつかまり立ちが徐々にできるように、2歳児であればトイレトレーニングに興味を持ち始めた子どもに声掛けをするなどの援助をおこなっている。 視察時は、5歳児クラスの洗面所に、ノロやアデノ、インフルエンザなどのウィルスの拡大写真が掲示されていて、年長児がウィルスに興味を持つことで、手洗い・うがいが習慣になるよう工夫がされていた。
A-1-（2）-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a		「サークルタイム」という名称でディスカッションの場を設けており、興味を持った事柄について、保育者の援助のもと、子どもたちが意見を出し合い、さらに興味を深掘りできるような環境作りがされている。 また、子どもが活動を振り返りさらにその活動に興味を深まるように、写真と文章を用いて視覚化するドキュメンテーションを保育に取り入れているなどの工夫がされている。

<p>A-1-(2)-⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a	<p>少人数制で保育者と密接なかかわりが持てる家庭的な保育を実施している。 午睡時は、天井を低くして家で過ごしているような落ち着いた環境を作るために、天蓋を設置するなどの工夫がされている。 また、ぬいぐるみ、大きなカップ、絵本、太鼓など乳児が安全に安心して楽しめ、五感を刺激して遊べる玩具を選ぶ配慮がされている。 視察時、午睡中の0歳児保育室の照明は、表情が分かる程度の薄暗さにしており、SIDS対策がしっかりと行われていることを確認している。</p>
<p>A-1-(2)-⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a	<p>棚でスペースを分け、ブロック遊び、ままごと、体を動かせる場所、と活動を分けて子どもが興味のある遊びに集中できるような環境設定がされている。活動ごとの場面の切り替えがしやすく、落ち着いた過ごせる環境づくりがされている。 保育の現場では、片付けがなかなか進まない子どもの気持ちや興味に寄り添いながら、自ら行動を促す言葉掛けがされていた。子どもたちにとって、安心感が生まれ、遊びや生活の流れに自然に取り組みやすい環境づくりがされている。</p>
<p>A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a	<p>子どもたちの興味を広げていくことで気づきや探求につながり、それが集中力や想像力へとつながっていく「つながる保育」という取り組みが行われている。 最近の事例として、子どもたちが「梅雨の時期は外に散歩に行けないがどうしたら散歩に行けるだろう」とサークルタイムで話し合ったところ「傘をさして外に出たらいい」という意見がまとまり、自分たちの傘を作ろうという意見がでた。そこから透明の傘にアクリル絵の具で模様を描いて自分の傘を作ろうというアイデアにまで発展するという活動が行われており、子どもたちが生き生きと活動できる環境づくりがされていることが推察された。</p>
<p>A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a	<p>市の巡回指導が年に2回あり、指導員のアドバイスを得ている。成長が気になる子どもには、指示カードを使用する、保育者が個別対応を行うなどの援助をしており、朝の会でその日の活動を伝えることで、一日の見通しが立てやすくなるよう配慮している。 また、発達に関わらず、誰でも「やりたくないタイミング」はあるため、制作活動は興味を持てるときに行えるよう、それぞれの子どもが1週間ほど時間をかけて一つの作品を作ることができる「平等な保育」に取り組んでいる。</p>
<p>A-1-(2)-⑨ それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a	<p>早朝保育では年齢に合わせた配慮、延長保育では疲れが見える子どもには補食を準備したり、他の部屋に移動して身体を休める、などの配慮がされている。 申し送りでは、事務所に早番・遅番の担当者が記入する伝達ボードを置き、保護者や担任からの伝達事項を記入して、各クラスに伝達して情報共有をしており、前年度以降、伝達ボードを活用することにより伝達漏れの防止を徹底し効果が上がっている。</p>

A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a	毎年、5歳児は近隣の小学校を訪問し、校内見学や図書室を使わせてもらうなどの交流が実施されている。また、小学校高学年の児童が「読み聞かせ委員」として保育園を訪問し、子どもたちに絵本の読み聞かせをしてくれるなど、子どもたちが就学を楽しみにするような取り組みが実施されている。 新年度の保護者懇談会では、「幼児期までに育てたい10の姿」についての説明を行い、就学までの見通しを持った保育を実施していることを保護者に伝えている。
A-1-(3) 健康管理		
A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a	感染症対策、熱性けいれん等のマニュアルは事務所にてファイルに綴じ管理されている。ヒヤリハットについては、職員会議で事例検証を行い再発防止に努めている。 また、研修で嘔吐・熱性けいれんの研修を実施し、その内容を職員会議で情報共有している。 年間保健計画が作成されており、環境整備や発育に関する配慮事項、保健衛生や感染症に関する家庭連絡について、詳細な計画が記載されている。 玄関にはAEDが設置され、保育室には嘔吐物の処理方法やインフルエンザについての掲示がされている。トイレには嘔吐処理セットも備え付けられており、感染予防のための取り組みが実施されていることを視察時に確認している。
A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a	定期健診の実施時には、健康や歯の大切さを発達に合わせた伝え方で囑託医から伝えてもらっている。 食後の歯磨きは3歳児以上で実施している。歯科検診後にはみがき指導、永久歯の大切さを学び、3歳児は実際に歯磨きをおこなってみるなど、発達に合わせた指導内容となっている。
A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a	入園時にはアレルギー面談を実施して、保護者に病院からの指示書を提出してもらい、調理職員と共有している。 毎月の献立作成時に調理職員と保護者がメニューを確認し、園長、主任、担任と情報共有を行うことで、アレルギー対応を徹底している。 アレルギー児対応マニュアルはアレルギー児の個別ファイルに保管されている。卵アレルギーや甲殻類アレルギー等、アレルギー対応が必要な場合は、ピンクのトレイと皿を使用し、他の子どもと少し離れたテーブルで食事を取ることで、食材の混入を防ぐ工夫をしている。

A-1-(4) 食事		
<p>A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。</p>	a	<p>毎月、誕生月の子どもに、職員からメッセージ付きの折り紙や、型抜きなどで飾りつけをした給食を提供している。年長児には卒園前のリクエスト給食を実施するなど、食を楽しむような工夫がされている。</p> <p>給食は、子どもの「食べたい」という意思を尊重し、食べられない場合は、無理に食べなくても良い旨の声掛けをするなど、個々のペースに合わせた配慮をしている。</p> <p>また、調理職員は、子どもたちと食材についてのクイズのやり取りを通して食への興味を促したり、視察時は子どもから贈られた手紙や折り紙が調理室に掲示されていたこと等から、子どもと調理職員の親交の深さが推察された。</p> <p>4・5歳児は給食当番としてエプロン・三角巾・マスクを着用して配膳を行うことで、作ってくれた人への感謝や食事を大切に扱う意識を持てるような取り組みが実施されている。</p>
<p>A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。</p>	a	<p>日々の喫食状況については、担任や調理職員が給食中の子どもの様子を観察することで確認している。</p> <p>この情報を基に、調理、担任、主任が参加する給食会議で、メニューや食材の形状などについて話し合い、さらに、栄養士も加わる給食職員会議では、その話し合いの内容に基づき、次月の幼児食や離乳食の具体的なメニューについて共有し、改善につなげている。二段階に分けた会議を毎月実施しており、園の食に対する意識の高さがうかがえる。</p> <p>年間食育計画では、3歳児未満と3歳児以上に分け、健康、マナー、文化、食の知識、食事作り、食の意識の6分野について詳しく計画されている。</p> <p>また、おやつがおにぎりの日には、保育室で子どもたちの目の前で握るなど「見える化」することで、作ってくれる人への感謝の気持ちや食べる意欲を育んでいる。</p>

A-2 子育て支援

	第三者評価結果	コメント
A-2-(1) 家庭との緊密な連携		
A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a	懇談会や個別面談、保育参観などを通して、保護者と園との間で子どもの様子を共有している。連絡帳はアプリを使用し、3歳児未満は、その日の様子を毎日伝えている、3歳児以上については、必要に応じて連絡帳に記入している。保護者からお迎え時や連絡帳で相談があった場合は個別面談を行うなど、保護者に寄り添った配慮をしている。保育の「見える化」に力を入れて取り組んでいる。子どもの受け入れが玄関までとなっているため、写真と文章を添えたドキュメンテーションを掲示し、日々の園での子どもたちの様子を保護者に分かりやすく伝えている。また保護者からの意見を積極的に取り入れるため、意見箱を設置しているほか、行事ごとにアンケートを実施し、次年度の行事計画に反映させている
A-2-(2) 保護者等の支援		
A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a	午睡用マット・シーツの無料貸出し、希望者にはおむつのサブスク対応、仕事にすぐに向かえるよう玄関での受け入れ、などの支援を実施し、保護者が子育ての負担を軽減できるよう力を入れて取り組んでいる。
A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a	虐待防止マニュアルがあり、職員間で共有されている。園内で何かあった場合には児童相談所と連携して、すぐに連絡できるよう体制を整えている。保育の現場では、着替えの際は子どもの身体の視診を必ず行う、子どもの気になる言動は職員間で共有して様子を見るなど、虐待の早期発見および予防に努めている。

A-3 保育の質の向上

	第三者評価結果	コメント
A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）		
A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a	保育者は自己評価をおこない、主体的に保育内容を振り返り、改善ができるよう取り組まれている。職員会議では、各担任が当月の保育の様子や反省点、次月の目標を発表する時間を持っている。これにより、他の職員から意見をもらう機会ができ、様々な視点から自身の保育について検討することができている。また、この取り組みは、異なる年齢を担当する職員が他の年齢の保育内容について深く理解して知識を得る機会にもなっている。